

2022年度 需 要 実 績 見 込

(一社)日本塗料工業会 事務局作成

2022年度は、主要メーカーへの需要動向アンケートの結果及び2022年12月までの経産省統計値から、塗料需要の実績見込を前年度比99.6% (1,182千トン) と見込む。

※前年度実績値 (2021年) はVOC排出実態調査から得られた推計値1,188千トンを使用。

需要産業区分		予測数量 (千トン)	前年度比	前年度比算出根拠 (メーカーコメント参照)
建 物		321	98.5%	コロナ禍からの持ち直しや首都圏再開発の活況により回復基調にあったが、長引く物価高により消費マインドも冷え込み、新築・塗替え共に低調に推移し、前年をやや下回る見込み。
建築資材		68	99.6%	働き方の変化により生じた郊外戸建て需要増から窯業建材向けの伸長も見られたが、アルミ建材、PCM建材などは減少傾向で、資材価格の高止まりも影響し微減となった。
構造物		73	99.3%	橋梁、プラントとも部分的には需要は底堅く堅調に推移したが、一般的に市況は低調で、塗り替え需要においても伸び悩み微減と予測。
船 舶		90	105.5%	新造船は鋼材価格の高騰により一部で受注見合わせも見られたが、引き合いは増加し、塗替えは堅調な需要に支えられ、一般的には前年比増の見込み。
道路車両	新車	193	104.1%	半導体等の電子部品の供給不足など不安要素の影響はあったが、国内自動車生産は回復傾向で、塗料需要としても前年比増の見込み。
	補修	30	96.2%	コロナ禍からは回復傾向にあったが、安全装置のさらなる普及や国内保有車両数減によるボディショップへの供給不足の影響もあり前年を下回ると予測。
電気機械		28	97.2%	年度後半にかけて半導体不足の緩和による生産回復も一部では見られたが、デジタル製品中心に低調に推移し、生産増には結びつかず、前年を下回る見込み。
機 械		53	99.5%	産業機械、工作機械は堅調であったが、鉄道向け等は低調傾向が継続しており、全体的な需要回復までは至っていない。わずかながら前年を割り込むと予測。
金属製品		94	96.5%	鋼製家具類の需要が落ち込み、自動車内装用の減少も大きく影響し、ガス器具向けなど一部で好調なセグメントは見られたが、半導体不足の影響もあり、前年割れを見込む。
木工製品		12	95.3%	抗菌・抗ウイルス塗料などの一部高機能製品の需要増もあったが、原料高、値上げの影響で出荷数量は落ち込み、家具製品全般の需要も減少傾向となった。
家庭用		31	93.1%	巣ごもり需要も鎮静化し、光熱費や物価の高騰から個人消費が大きく低下。エアゾール類の需要が若干回復傾向にあったものの、小売店での販売不調も影響し、前年割れの見込み。
輸 出		62	98.9%	中国経済の失速や半導体不足の影響で需要は不安定であった。自動車産業の回復で期待は持たれたが、全体的には微減となった。
路面標示		61	95.9%	トラフィックペイントやすべり止め工事などは好調に推移したが、原材料高騰に伴う製品値上も影響し、前年比減となる見込み。
その他		67	100.0%	皮革分野などで値上げ前の駆け込み特需もあったが、原料価格高騰の影響もあり、市場の先細り感は継続し、前年同水準の予想。
合 計		1,182	99.6%	原料・エネルギーコストの高騰、ロシアによるウクライナ侵攻など世界的な不安要因が経済活動にも影響し、コロナ禍からの回復も足ぶみ状態と見られた。自動車、建設機械、工作機械等回復傾向の分野もあり、金額的には前年比増の面はあるが、売上数量は前年比微減の厳しい状況である。

※2021年度出荷数量推計値1,188千トンは「2022年塗料製造業実態調査」表5-4-1の塗料出荷数量と、希釈シンナー量(「2021年度塗料からのVOC排出実態推計まとめ」のシンナー希釈率により算出)との和により求めた。

2023年度 需要予測

(一社)日本塗料工業会 事務局作成

2023年度は、公表されている政府、民間の経済見通し及び主要需要産業の2023年度の景気動向予測、並びに主要メーカーへのアンケート結果から前年度比104.0%（1,230千トン）と予測した。

※2022年度需要実績見込の予測数量を1,182千トン（前年度比99.6%）として計算。

需要産業区分	予測数量 (千トン)	前年度比	前年度比算出根拠（メーカーコメント参照）	
建 物	337	105.1%	戸建て住宅関連は低調を予想するが、集合住宅の改修は堅調に推移し、都心部を中心に需要が徐々に回復してくると見られる。高付加価値製品の拡販も期待され、前年比増を予想。	
建築資材	67	99.3%	新築住宅着工件数は減少見込みの上、建築資材の高騰が続き、需要は低迷すると予想。原材料・エネルギーコストの上昇の沈静化が望まれる。	
構造物	74	101.1%	鋼材需要はおおむね前年同様の水準で堅調に推移し、鉄塔の塗替え需要など市況回復への期待も見込まれるが、不透明感が拭えずほぼ前年並みを予想。	
船 舶	95	105.5%	修繕は前年並みの見込みであるが、新造船に関しては建造量の増加が期待される。船価見直し後の受注分が着工となり、特に年後半からの需要活発化が見込まれ、前年比増を予想。	
道路車両	新車	212	109.9%	次年度は更なる自動車生産増の見通しで、電子部品供給不足の不安要素は残るものの、大幅増を見込む。
	補修	30	101.5%	在庫数は減少傾向であるが、環境配慮型塗料の投入や大型車両・産機分野への参入など横展開にも注力するメーカーもあり、市況回復とあわせ微増を予想。
電気機械	28	100.6%	半導体設備工場向けなどの需要増の分野もあるが、原材料価格の高騰や部品不足の影響が不透明で、前年並みを予想する。	
機 械	54	101.6%	建設機械市場の成長は一段落し鉄道用も減速見通しで、原材料価格の高騰の影響も残ると考えられるが、工作機械関連は回復傾向にあり、微増を見込む。	
金属製品	99	105.4%	PCM鋼板の価格高騰が一段落することで建材市況回復を期待する。粉体関連は前年並みを予測するが、自動車部品等金属製品の需要増が見込まれ、前年比増を予想。	
木工製品	12	99.7%	コロナ禍からの本格的な需要回復が期待されるが、資材の価格は高止まり、物価上昇による更なる家具購買意欲の低下も懸念され、ほぼ現状維持を予想。	
家庭用	31	100.6%	ホームセンターへの高付加価値製品の拡販や売り場面積拡大等売り上げ回復のためのメーカー努力は続くが、物価上昇など景気の先行きは不透明で、前年並みを予想。	
輸 出	63	101.7%	半導体影響、中国経済の失速など需要見込は不透明であるが、自動車生産台数の回復や建材需要も高まっており、微増を予想する。	
路面標示	60	98.3%	公共事業を中心に回復が期待されるが、製品値上げも影響し物件数の増加は見込めず、微減となる見込み。	
その他	67	100.1%	革製品市場ならびに紙用コーティング材料市場は世界的には需要拡大が期待されているが、原料高や世界情勢に対する不安材料も有り、次年度も同水準を予想する。	
合 計	1,230	104.0%	「ウィズコロナ」の生活様式も浸透し、経済的にも内需を中心に持ち直しが期待される。特に自動車産業や船舶、工業用関連での回復見込が大きく、全体では前年比増を予想する。但し、原材料や諸物価の高騰による先行き不透明感は当面続くとして予想する。	